## 第一分科会(3)

# 最期まで自分らしい死合わせを求めて

人生会議 (ACP) もしバナゲーム 想いのカケラ集め "長く生きる"から"よく生きる"へ

とくべつようごろうじんほーむ とみたけのさと

## 長野県・長野市

特別養護老人ホーム 富竹の里

かいごふくしゅにん わたべ たつき

介護副主任 渡部 健貴

Mail: koujinkai@tomitake-carenet.com

今回の発表の施設 またはサービスの 概要



since 1986 社会福祉法人光仁会富竹の里(KOUJINKAI TOMITAKENOSATO) 地域を支える社会福祉事業を実践しています Social welfare service to support communities



## <取り組んだ課題>

- 1 メメント・モリ
- 死を想う壁"迫る人生の終着駅"
- 2 自分らしく人生を終うために
- 終の棲家で"旅支度"

#### <具体的な取り組み>

- 1 "知る"だけではなく"解る"へ
- (1) 入居前から最期を見据えて
  - ・ 入居待機者 (申込者) へ公開講座、家族会開催
  - ・リビング・ウイルと ACP の相互推進
- (2) 家族参加型のサービス担当者会議の開催
  - ・顔の見える関係性の構築と心身状態の共有
  - ・入居前の人となり、趣味・嗜好の把握
  - ・思いを込めたサービス計画と PDCA の展開
- (3) 自分の最期は自分のもの(職員研修会実施)
  - ・「もしバナゲーム」で死生観の表出
- (4) 死を糧にして
  - ・遺族へ訪問、想いを聴くデスカンファレンス
  - ・医療と介護の連携
- 2 ACP につながる想いのカケラ集め
- 大切な人とあの場所へ(積極的な外出)

## <活動の成果と評価>

- 1 "知る"だけではなく"解る"へ
- (1) 入居前から最期を見据えて
  - ・死をタブー化しない価値観の創造へ

#### 【公開講座参加者アンケート結果】

- Q1: 人生会議: ACP を知っていたか?
- A1:知っていた 19% 知らなかった 81%
- Q2:医療ケアについて話し合ったことがあるか?
- A2:ある58% ない42%
- Q3:「ある」と答えた方は誰と話し合ったか?
- A3:家族82% ケアマネ9% 医師3% 知人3%
- Q4: 人生会議をはじめるきっかけになったか?
- A4: なった71% 始めている19% 未記入10%

- (2) 家族参加型のサービス担当者会議の開催
  - ·開催件数: 2023 年度 0 件 → 2024 年度 23 件
- ・大切な家族の死に向けて「デス・ナッジ」
- ·入院日数: 2023 年度 510 日 → 2024 年度 151 日
- ・看取り率: 2023 年度 81% ➡ 2024 年度 71%
- (3) 自分の最期は自分のもの (職員研修会実施)
- 一人ひとりで死への想いは違う
- ・価値観を否定しない風土の醸成

#### 【職員アンケート結果】

- Q1: 人生会議: ACP を知っていたか?
- A1:知っていた30% 知らなかった70%
- Q2:医療ケアについて話し合ったことがあるか?
- A2:ある48% ない52%
- Q3:「ある」と答えた方は誰と話し合ったか?
- A3:家族63% ケアマネ0% 医師0% 知人0%
- Q4:人生会議をはじめるきっかけになったか?
- A4:なった89% ならない4% 始めている7%
- (4) 死を糧にして
  - ・人の最期は人の数だけ(百人いれば百通り)
  - ・正解のない看取り支援(個々の反省と後悔)
  - ・「正しく選択する」から「選択を正しくする」へ
- 2 ACP につながる想いのカケラ集め
- 大切な人との場(空間・時間)の共有
- 望みの実現 ≒ 終の棲家でよく生きるへ
  - ➡ 生まれ育った故郷・職場にもう一度
  - ➡ 思い出の写真をもう一度
  - ➡ 両親が眠る墓前にもう一度
  - ➡ 看取りでも家に・田んぼに・畑にもう一度
  - **→** あの着物をもう一度
- 自分ならではの人生物語の最終章を書き上げる
- 家族の無力感と喪失感の軽減

#### <今後の課題>

- 自発的な ACP 文化の醸成
- 持続可能な社会への貢献